

活動助成（2009年度募集）活動実績報告書

団体名	特定非営利活動法人 大阪被害者支援アドボカシーセンター
活動テーマ	犯罪・事故の被害者による手記集の発行

手記集「伝えたい思い～犯罪被害者が紡いだことば～」



手記集配布の様子



犯罪被害者週間オープニングセレモニー会場にて配布



オープニングセレモニー会場での手記集の展示



「事件・事故の被害者、遺族が置かれている現状や思いを、一人でも多くの人に知ってもらいたい」その一心で、8名の被害者、遺族が「自分の心の傷と向き合い、時には心の傷のかさぶたを剥がしながら、自分の体験や感情を少しずつことばに整理」（手記集前文より）しながら、手記を寄せて下さいました。そして完成したのが手記集「伝えたい思い～犯罪被害者が紡いだことば」です。

多くの被害者、遺族は、犯罪、事故そのものから引き起こされる「一次被害」（命を失う、負傷する、後遺障害が残る、経済的な損失、性被害では妊娠や性感染症など）に苦しみ、さらに警察や検察庁からの事情聴取や裁判、マスコミの報道など今まで体験したことのないようなことが一度に押し寄せ生活が一変したうえに、「二次被害」（事件、事故後の警察、医療機関、マスコミ、司法関係機関、友人、知人、家族との関係の中で、被害者、遺族がさらに傷つけられること）にも苦しんでいます。しかし、ほとんどの一般市民はこれらのことを知りません。一人でも多くの方に手記集を読んでいただくために、約 4000 部を府下の高校、図書館、一般市民の方や関係機関に配布しました。

読まれた方からは「初めて知ったことばかりだった」「センセーショナルな事件報道の陰で被害者がこんなにも苦しんでいたとは・・・」「被害者の苦しみが一生続くことに驚いた」「命の大切さを実感した」などの声が寄せられています。

被害者、遺族が被害回復し、元の平穏な生活を取り戻すためには、地域社会を始めとする周囲の人たちの理解が欠かせません。この手記集がその一助となり、被害者や遺族への理解が深い、そして誰にとっても安心で安全な社会となることを願っています。